

〔翻訳〕

郭沫若「カルメラ娘」訳注（下）

張 琢 月

本稿は郭沫若「カルメラ娘」（原題は「喀爾美萝姑娘」）の訳注であり、「郭沫若「カルメラ娘」訳注（上）」（『国士館人文科学論集』第5号、2024年2月）、「郭沫若「カルメラ娘」訳注（中）」（同6号、2025年2月）に続くものである。

〔凡例〕

- ・底本には『郭沫若全集』文学編・第9巻（人民文学出版社・1985年）（以下、「全集本」と略称）を用い、『東方雑誌』第22巻第4期（1925年）（以下、「初出本」と略称）を参照した。
- ・全集本と初出本の異同は、注釈に示した。ただし、記号の変更（「。」→「！」）や文意が大きく変わらない改訂については省略した。
- ・補注は注釈に示した。なお、郭沫若の自注については、「郭沫若の自注」であることを明記した。

私はすでに死んだ人間なのに柔らかいベッドで寝ていました。これも夢の世界なのでしょう？瑞華がベッドの脇に座り、私の両手を握っていました。ぼんやりとした間に、たくさんの白衣を着ている人が見えるので、病院にいることが分かりました。口の中が耐えがたいほど苦くて、お茶を頼んだら、声がまるで別人のような気がしました。瑞華が甘い液体を私の口に注いでくれました。おそらくワインでした。瑞華の目には喜びと安堵の輝きが見えます。私の方は耐え難い寒さに襲われていました。白衣の人々はみんな喜んでるように見え、一人が瑞華に何か指示を出すと、みんな順番に退室しました。黄色い電灯の光は、まるで夢を見ているかのようでした。

私は昨晚日村の漁船に救助され、すぐにこの大学病院に搬送されました。今になって、ようやく意識が戻りました。もう夜中を過ぎていました。息子と娘はS夫人に預かってもらっているそうです。

私はしばらくすると発熱し始め、朦朧とした状態となって再び意識不明になりました。熱が下がった時は、もう翌日の午前中でした。医師はもし合併症がなければ、あと二週間ほど休めば回復するだろうと言いました。翌日の午後、瑞華は子供を連れてきて、病室にベッドが二台あり、家族全員でここに泊まりました。夜最後の検温時間が終わり、子供たちはもう一台のベッドでぐっすり寝ていました。瑞華はベッドの縁に腰をかけ、私は彼女の手を握ったまま涙を流すばかりでした。

彼女は私に尋ねました。「どうしてそんなに悲しんでいるの？卒業できないから？……今学期に出来なくても、次の学期まで五ヶ月延長すればよいだけなのだから、そんなに悲しむ必要はない

でしょう。」

私は泣きながら首を横に振ることしかできませんでした。

——「あなたが海に飛び込んだことが世間に知られると、人聞きが悪いと心配しているでしょうか？これは最近、あなたが神経衰弱のせいで、病気が発症したものです。私があなただけのことを大切にせず、あなたを病気でこんなにまで苦しませてしまったことを後悔しています。」

私はさらに泣き、ただ首を横に振るばかりでした^{*1}。

——「もう悲しまないで。熱が下がったばかりだし、医師はまだ他の合併症を心配しています。あなたは合併症のことが心配？」

私はようやく泣きながら^{*2}去年春休み以来の経過を詳しく彼女に話しました。彼女は沈黙したまま最後まで聴き、私のおでこにキスをしました。彼女は私がすべての話を教えてくれたことに感謝していると言いました。そして彼女は最初が彼女の過ちであり、カルメラ娘の目と睫毛がきれいであると言ったと言いました。最後に卒業のことについて、彼女は焦らないで、身体が回復したら、五ヶ月遅れて卒業しても構わないと話しました。彼女の言葉は私を元気にさせ^{*3}、何の合併症も起こらず、医師の予測より一週間早く退院しました。その後九月に卒業し、すぐ上海に戻り、そのまま今年の正月まで上海に住んでいました。その間のことはあなたも知っているでしょう^{*4}。自分でさえカルメラ娘のことをすっかり忘れていたように感じました^{*5}。

ああ、私はあの脚に障害のあるS夫人を怨んでいます！彼女は『マクベス』に出てくる魔女のようで、私の運命は彼女に弄ばれています。カルメラ娘の新住所を、彼女が瑞華に教え、私までも知ってしまいました^{*6}。帰国後、今年の正月に彼女からの手紙が届き、私たちにカルメラ娘はF市のカフェの女給になっていることを知らせました。ああ、ああ、すでにふさがっていた心の傷が再びS夫人のせいで裂けてしまいました。カルメラ娘への感情が、以前よりも強く蘇ってきました^{*7}。一年以上も彼女を忘れていたことが、残酷に復讐してきました。私はまた眠れなくなり、すべての精力を失ってしまいました。友よ、あなたは覚えているでしょう？私が正月以来、どれほどあなたからもらった臭化カリウム^{*8}を飲んだことか、あなたは覚えているでしょう？

*1 初出本には、ここの後、「我对不住你、我对不住你、我把你欺骗了！（あなたに申し訳ないです。あなたに申し訳ないです。あなたを騙しました！）」とあり、全集本ではこの句がない。

*2 初出本には「我哭着把去年春假以来……」とあり、全集本では「我到这时候才哭着把去年春假以来……」と改訂。

*3 初出本には「她这些话把我的精神整作起来了、」とあり、全集本では「她这些话把我的精神振作了起来、」と改訂。

*4 初出本にはこの一句がない。

*5 初出本には「我对于 Donna Karmela 几乎是全然忘记了。」とあり、全集本では「就是我自己也觉得我对于 Donna Carmela 几乎是全然忘记了。」と改訂。

*6 初出本には「我才得認識。」とあり、全集本では「我才知道。」と改訂。

*7 初出本には「比以前更強烈地蘇活了起來、」とあり、全集本では「比以前更強烈地蘇活了起來、」と改訂。

*8 臭化カリウム potassium bromide, 化学式:KBr。無色の結晶性粉末で、水に溶けやすい性質を持つ。1800年代には鎮静睡眠薬や抗不安薬として用いられていた。

カフェの女給——これは上海の洋館カフェにも存在するが——日本ではいたるところに見られます。カフェの店主は客寄せのために^{*9}、おそらく美しい娘たちを看板として選び、トレンドに合わせた服装、白いエプロン^{*10}をつけさせ、丁寧に対応し、美しい手でお客さんにお酒を勧めます。これは新しい形の売春生活です——私のカルメラ娘も結局このような生活に落ちてしまいました。私は彼女に会いに行くため、実習を口実に、四月に再びここに戻って来ました。——友よ、あなたたちを騙した行為を許して下さい！^{*11}——私が来たばかりの時、S夫人にカルメラ娘がいたカフェを訊き、探しに行った時、彼女はすでに二週間前に辞めていました。私の運は本当に悪いです。その後私はF市でカフェ巡礼者になりました。F市のカフェをすべて巡り歩きました。まるで去年の関東大震災で、子供を失った親たちがあちこちの遺体置き場から我が子の遺体を探し出すように、私もF市のカフェの女給たちの中から私のカルメラ娘を捜し求めました。この二ヶ月間の巡礼で、私はすべての生活費を使い切りました。一昨日、S夫人のところへお金を借りに行きました。彼女は一对の金の腕輪を貸してくれて、質屋に入れるように言いました。彼女の夫はまた県外^{*12}に視察に出かけていました。彼女は私を晩ご飯に誘い、お酒も用意し、懇ろにもてなしてくれました。

このS夫人はH村では有名な美人であり、私と年が近いです。ただ左足に少し障害があります。彼女はこの障害のせいなのか^{*13}、それとも自尊心のせいなのか、誰も分かりませんが^{*14}、彼女は普段から交際が少なく、付き合いのある日本人は一人もいません。彼女の夫は法学士であり、F県の県庁で働いています。二人には子供がいません^{*15}。彼らは同僚とのつきあひすらないのですが^{*16}、不思議なのは、私たちと非常に仲が良いことです。特にS夫人には私に対する何かあやしいふるまいがあります。

彼女は私を家に招きお酒を飲ませてくれました。私の替わりにお酒を注ぎ、時には私が飲み残した半分のお酒を飲みました。彼女は若い頃「遊郭」^{*17}の近くに住んでいたようで、遊女達の歌をほとんど覚えていると言いました。会話が盛り上がると、小声で歌い出しました。そんな雰囲気の中で、私は彼女にお金を貸してもらいました。彼女は手につけていた金の腕輪を外してくれました。

*9 初出本には「珈琲店の主人為招誘生意計、」とあり、全集本では「珈琲店の主人為招攬生意計、」と改訂。

*10 エプロン 原文は「愛布籠」。郭沫若の自注には「英語 apron の音訳であり、胸から垂らして腰に締める長い布」とある。

*11 初出本には「——朋友，請恕我对于你們的這場欺騙罷！——」の句がない。

*12 初出本には「她的丈夫往外方去視察去了。」とあり、全集本では「她的丈夫往外県去視察去了。」と改訂。

*13 初出本には「她是因為這殘疾的緣故、」とあり、全集本では「她是因為這殘疾的緣故呢、」と改訂。

*14 初出本には「我們雖不得而知、」とあり、全集本では「我們不得而知、」と改訂。

*15 初出本には「他們還有兒女。」(子供がいます)とあり、全集本では「他們沒有兒女。」(子供がいません)と改訂。

*16 初出本には「……同僚們都沒有交際的樣子、」とあり、全集本では「……同僚們都沒有交際、」と改訂。

*17 遊郭 原文は「遊廓」。郭沫若の自注には「日本の娼楼」とある。初出本には「遊廓——日本的娼楼——相近、」とあり、全集本では「——日本的娼楼——」が削除され、注釈になる。

最近、私はお酒がずいぶん強くなったと感じました。毎日、カフェでお酒と女に溺れ、神経を麻痺させようとしていました。私は酔っており、瑞華のことも、子供たちのことも、カルメラ娘のことも、カルメラ娘の目も、全てを忘れ、その時が一番幸せでした。目覚めると、たいへん苦しく、まるで十字架の磔刑を受けたようでした。

S夫人の家で四合ほどのお酒を飲み干し、酔っ払いました。帰ろうとすると、彼女は私の手をとって行かせてくれませんでした。

——「外は雨が降っていますし、あなたも酔っていますので、今夜はここに泊まられてはどうでしょうか。」

私は彼女の話に従い、寝イスまで導かれ横たわりました。彼女は部屋を片付け、玄関のドアを閉めました。そして水を汲みに行き、私の顔をあらってくれたあと、自分の洗顔をしました。彼女は服を脱ぎ、ピンク色の腰巻きだけを残し、鏡を見ながら化粧をし始めました。彼女は背中を私に向け、畳の上に正座していました。おしろいの香りがひとしきりただよい、甘くて心に刺さりました。彼女の髪は多くて黒く、両肩はまるでカラを剥いたゆで卵のようでした^{*18}。彼女の美は日本人が言う娼妓の美であり、卵形の顔、なで肩、元気がない様子——おしろいの下に薄い血管の青が見え、顔にはまったく緊張が見られません。彼女はおしろいをつけながら私の方に目を向けていました。私にカルメラ娘と比べてどう？と訊いてきました。私は酔っ払ったふりをして返事をしませんでした。彼女は化粧を終えると、布団を敷き始めました。その布団は赤色の新しい絹織物で造られたものでした。彼女はこの絹織物は私と瑞華からもらったプレゼントで、今夜初めて使うと言いました。彼女はこちらに来て私のことを見つめ、ふたたび仁丹^{*19}を取りに行つて数粒を口に含み、口移して私に飲ませました。私は軽くうなずき、彼女に感謝の気持ちを示しました。——しかし私の心のなかでは本当に恐怖を感じながら、今晚いかに彼女の虎口から逃れるかを考えていました。彼女は寝椅子に座り、両足を長く伸ばし、右手の前腕を私の胸に載せ、顔をしっかりと私に向けていました。彼女は私がそれほどカルメラ娘に夢中であることを、心から認めないと言いました。カルメラ娘は眼がきれいなだけで、愛嬌がありません。先日、カルメラ娘が丸髻の髪型^{*20}となっていたのを見たとき最後に言いました。彼女は駅で友達を見送った時、カルメラ娘が商人っぽい太い黒々とした大男と一緒に座り、カルメラ娘の祖母がホームで見送っていたのを見たと言うのです。まもなく発車しようとする時、祖母はカルメラ娘に「東京にいたら、すぐ手紙を送りなさい……」と言ったそうです。私はS夫人の話を知ると、心に鋭いとげが刺さったかのようでした。さらに彼女はおそらくカルメラ娘は、あの商人っぽい黒い大男の妾になったと言いました^{*21}。——ああ、魔女よ！私をどれほど苦しめるのか？私は酔っ払ったふりを

*18 初出本には「……一個煮熟了的雞蛋一樣。」とあり、全集本では「……一個煮熟了的雞蛋。」と改訂。

*19 仁丹 酔い覚ましとして服用したと思われる。たとえば、大正時代の新聞広告として、『読売新聞』大正元年9月17日の広告に「仁丹で萇（たばこ）が甘（うま）い酒（おさけ）がおいしい」と見える。

*20 丸髻 原文は「丸髻」。郭沫若の自注には「これは日本女性が結婚したことの証拠である」とある。

*21 初出本には「她還說她怕是成了那位商人風的大黑漢的外妾了。」とあり、全集本では「她還說怕她是成了那位商人風的大黑漢的外妾了。」と改訂。

続け、彼女の言うがまま、また彼女のなすがままでしたが、全く反応しませんでした。でも彼女が燃え上がっていることは分かっていました。彼女は私を抱きしめ、どれほど私を愛しているかを伝え、心のなかで私のことを四年もずっと思っていたと告げました。彼女は私に服を脱いで寝てくださいと言いました。私は少しも声を出さず、少しも動かず、まるで死んだ人のようでした。彼女は私の身体をさすり、私を促し、私に反応がないのを見ると、冷たい水を私の額にあて^{*22}、また仁丹を私の口に入れました。私は口を開けたまま、仁丹を飲み込みませんでした。彼女は非常に気まずそうでした。それはあらゆる手段を尽くしたのに、私が反応しなかったからです。最後に彼女は毛布を私の身体にかけ、失望したらしく、一人で寝てしまいました^{*23}。……少し横になると、また起き上がり、私にちょっかいをだしてきました。最後の最後に私のふとももを強くつねり、ため息をつき、電気を消しました。私は内心でおもわずほくそ笑んでいました。

私はいまどこにいるでしょう。私はどのような状態でこのあなたへの手紙を書いているでしょう。あなたは当てることができないでしょう？私はS夫人からもらった金の腕輪を質屋に持ち込み、50銭に換えました^{*24}。今は東京行きの三等列車に乗り、さきほど横浜を通過しました。横浜に来ないと、地震の惨状は想像も出来ません^{*25}。大きな建物の残骸は、まるで解剖室にある人体標本のように、ある貧民達は路上で生活をしています^{*26}。列車の窓ガラスには今の私の姿が映っていますが、私の心に潜んでいる火山は私の存在そのものを揺るがし続けています。私の身体はただの遺体であり、列車は私の棺で^{*27}、私を東京の廢墟に送り、埋葬をしに行きます。瑞華と初めて日本に来た時のことを思い出していました^{*28}。ちょうど横浜から上陸し、周りの景色が希望に満ちた光で私たちを迎えてくれて、私たち二人もまるで草原の鹿のつがいのようでした。私たちは目前の幸せを楽しみにし、未来の樂園を計画していました^{*29}。二人は何も心配することなく、気楽でした。それからわずか十年が経ち、私たちは心配事を、苦しみをなめ尽くしました。二人の関係はバラバラに崩れ、子供と別れ、私もこんなところに落ちぶれてしまいました。廢墟をさまよっている哀れな魂よ！泣こう、泣こう！……窓の外は梅雨であり、大自然の悲しみと物思いを表して

*22 初出本には「她又把冷水上氷我的額頭、」とあり、全集本では「她又把冷水来氷我的額頭、」と改訂。

*23 初出本には「她各自去睡了。」とあり、全集本では「她独自去睡了。」と改訂。

*24 初出本には「我把S夫人的金鐲質了五十塊錢、」とあり、全集本では「我把S夫人的金鐲当了五十塊錢、」と改訂。

*25 初出本には「地震的惨状不到横浜来时想像不出来。」とあり、全集本では「地震的惨状不到横浜来是想像不出的。」と改訂。

*26 初出本には「一些小戸人家都還是天幕生活。」とあり、全集本では「一些小戸人家都還在過着天幕生活。」と改訂。

*27 初出本には「這乘火車是我的棺材、」とあり、全集本では「火車是我的棺材、」と改訂。

*28 初出本には「我想起我和瑞華初来日本時、」とあり、全集本では「我想起我初和瑞華来日本時、」と改訂。

*29 初出本には「……我們規畫着未来……、」とあり、全集本では「……我們計畫着未来……、」と改訂。

いるかのようです^{*30}。

私はシアン酸カリウム^{*31}を身につけ、ピストル^{*32}を一丁持っています。東京へ人を殺しに行きます。——少なくとも自分を殺します！

昨年、彼女の玄関先のドアから剥がした二枚の張り紙は、入水の時に濡れてしまい、今となってはその張り紙をなくしたことを後悔しています。一年以上会えなかったので、彼女の姿もだんだんぼんやりしてきましたが、彼女の眼、彼女の睫毛だけは、私の靈魂の深いところまで刻み込まれています。今生では彼女に会える機会がないでしょう。冷静に考えると、彼女は必ず幸せに暮らしており、せめて物質的には幸せなはずです。二等列車に乗って東京で新婚旅行を楽しんでいることでしょう。今この瞬間も、浅草公園で映画を見ているのでしょうか。それとも精養軒で洋食を食べているのでしょうか。彼女の心のなかにカルメラを食べていた私という馬鹿な存在は残っているのでしょうか。かわいそうな瑞華は手紙を送り、私にカルメラ娘との結婚を勧めてくれました。私は本当にドン・ファン^{*33}ですね！……

もういいです^{*34}。私はもう書くのを止めます^{*35}。お墓がすでに目の前に迫っています^{*36}。

*30 初出本にはこの後、「書簡体的小説、近代是很流行的、你接了我這封信、別以為是一封小説、這是我一段生命的記錄呢。假使有有文學的天才的人要加以潤色、定可以做篇好的小説出來、我或者可以隨着瑞華、隨着 Donna Karmela、可以永遠不死——但是不死有甚麼用處呢！（書簡體的小説が近年流行っていますが、私の手紙を小説とは考えないでください。これは私の生活記録なのです。文學の才能を持っている人へ書き直してもらえば、絶対によい小説になります。私はおそらく瑞華、Donna Karmela と同様に、永遠に不死となります。——しかし、不死が何の役に立つのでしょうか！）」とあり、全集本にはこの一文がない。

*31 シアン酸カリウム Potassium Cyanide, 化学式: KCN。白色の粉末状結晶で、水に溶けやすい性質を持つ。人体に有害な毒物で、経口致死量は成人の場合 200 - 300mg/人と推定されている。

*32 初出本には「手砲」とあり、全集本では「手槍」と改訂。

*33 ドン・ファン 原文は「Don Juan」。スペインの伝説上の人物で、「女たらし」の意味となる。パイロンに長編叙事詩『ドン・ファン』があり、主人公として描いている。

*34 初出本にはこの句がない。

*35 初出本にはこの句の後、まだ続きがある。「以後我也不望你再有信來。我在東京的住址便是 S 夫人也無從曉得。關於我的家族、我没有甚麼拜託的事情、瑞華自己能夠料理。只是他們有病痛時、望你照拂。（今後、手紙を頂くことも望みません。東京での住所は、きっと S 夫人にも分かりません。私の家族について、特に頼みたいことはありません。瑞華は家計を切盛りできると思います。ただ彼女たちが病気の時には、世話をお願いします。）」とあり、全集本にはこの一文がない。また、初出本の最後に「八月十八日」の日付があり、全集本にはこの日付がない。

*36 初出本にはこの句がない。